

目 次

第8章 システム評価	1
第1 はじめに	1
1 本章の概要	1
2 本章のねらい	1
3 本章の流れ	2
第2 評価実施システムの判断方法	3
1 評価を実施する目安	3
2 評価実施の希望制	3
第3 現行システムの関連文書の整理	3
1 システム概要の整理・確認	3
2 現行システムの利用状況の整理	4
3 セキュリティ対策状況の整理	4
第4 現行システムの運用状況の確認	4
1 システム評価ファイルによる運用状況の確認	4
2 現行システムに対する評価の観点	5
第5 現行システムの運用状況の評価	6
1 運用状況の評価	6
2 評価レベルの判定基準	7
3 6つの評価観点による評価判定	7
4 現行システムに対する総合評価	8
第6 現行システムの課題認識	9
1 改善点	9
2 見直し案	9
第7 現行システムの改善／次期システムの方向性検討	10
1 次期システムの方向性	10
2 現行システムの改善	11
3 システムの抜本見直し	11
4 全体最適化施策(横串施策)	11
5 システム評価結果の取扱	12
第8 課題解決支援	12
1 課題解決支援の概要	12
2 課題解決支援の実施	12

第8章 システム評価

第1 はじめに

既に導入された情報システムについて、当初想定された効果の検証や、システムの機能や機器のスペックの過不足の有無などの確認が不十分なまま、仕様内容を見直さずに再構築を行うと、システムの構築や運用にかかる費用が高止まりすることや、情報システムの機能や品質に影響を及ぼす事態が発生します。

このような事態を回避するためには、事前に現行システムの問題点を把握し、改善していくことで、適正な調達につなげていく必要があります。

そこで、システム開発や再構築時に想定した目的や創出される効果が、運用後に期待どおりに発揮されているかどうかを検証し、改善策に生かしていくための重要な取組として「システム評価」の実施が求められています。

1 本章の概要

三重県情報システム評価(以下「システム評価」と言います。)は、情報システムの企画、構築から運用、評価に至る一連の情報システムのライフサイクルにおける管理体制を確立するために、平成24年度より導入された制度であり、平成28年度に制度の抜本的な見直しが行われました。

本章では、現在運用中の情報システムについて、システム評価を行うことにより、次期システムのシステム企画・調達計画策定に向けて現行システムの問題点を洗い出し、次期システムの方向性を検討するための作業を示しています。

主な作業は以下のとおりです。

- ・ 現行システムの運用状況の確認
- ・ 運用状況の評価
- ・ 次期システムの方向性検討

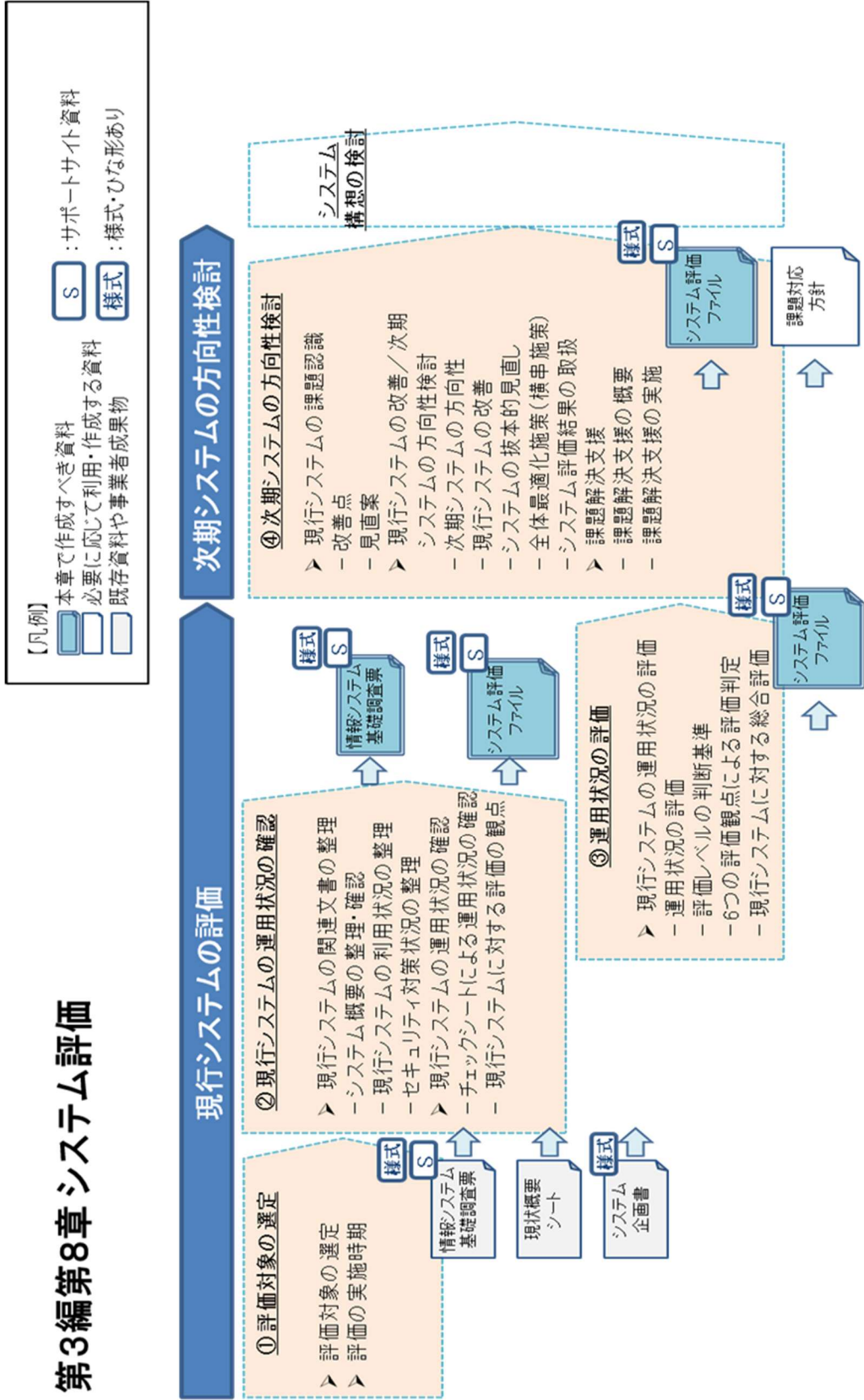
(本章に係る様式・資料)

- (サポートサイト)情報システム基礎調査票
- (サポートサイト)システム評価ファイル 様式・記入例
- (サポートサイト)システム評価 チェックシート等作成手順
- (本文・図表)システム評価ファイル
- (本文・図表)現行システムの評価を踏まえた改善点
- (本文・図表)現行システムの総合評価に対応した次期システムの方向性の例

2 本章のねらい

システム担当所属が本章を参照して、システム評価を実施することにより、現行システムの問題点を可視化し、次期システムの方向性の検討ができるようになることをねらいとしています。

3 本章の流れ

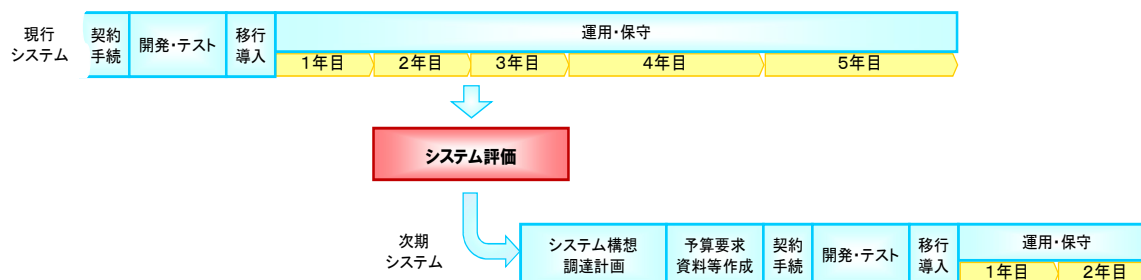


第2 評価実施システムの判断方法

1 評価を実施する目安

システム評価を実施する目安となるシステムは、運用開始後 2 年ないし 3 年を経過したシステムで、システム評価の実施年度の翌々年度あるいはさらに 1 年度先の年度において現行システムの契約終了時期を迎えるシステムです。

【システム評価の実施時期の例】



2 評価実施の希望制

原則、システム評価の実施を希望するシステムに対して、システム評価を実施します。併せて、セキュリティ面や過去の予算要求内容、システムの状況などからシステム評価を実施することが好ましいと判断したシステムの担当所属に対し、情報システム課デジタル戦略企画課から声掛けを行います。

なお、システム評価の実施を希望しないシステムであっても、課題抽出のツールとしてシステム評価ファイルを利用して、現行システムの状況を把握することは可能です。

第3 現行システムの関連文書の整理

1 システム概要の整理・確認

対象となるシステムについて、導入時のシステム企画書や調達仕様書、契約書、完成図書などの関連文書を入手するとともに、作成済みの情報システム基礎調査票を基に、現状業務システム概要の整理及び確認を行います。関連文書を確認した結果、情報システム基礎調査票の見直しが必要な場合は、更新を行います。

システム概要の整理・確認に当たっては主に以下の観点で既存資料等を用い整理します。詳細については「第2章 第3 現状業務・システム概要の把握」を参照してください。

(1) 現状業務の把握

- ア 業務の範囲
- イ 業務の内容、流れ
- ウ 関係者
- エ 業務量

(2) 現行システムの把握

- ア システムの範囲
- イ データの内容、流れ

- ウ データ量
- エ 非機能要件(システムの規模、業務継続性・情報セキュリティ等に関する事項等)

2 現行システムの利用状況の整理

現行システムの利用状況の整理では、現行システム構築時の目的及び定量的に設定した目標値と実績値を把握することが重要となります。現行システムの実績値については、委託事業者から提出された運用状況報告書等で確認してください。

また、利用ユーザ(たとえば三重県民)の満足度といった、定量的に把握することが難しい項目については、アンケートや問合せ状況、意見・要望といった情報が必要となります。これらの情報についても、定期的にアンケートやヒアリングを行うなどにより把握・分析し、費用対効果を踏まえて優先順位を付け、対応方針を検討してください。

3 セキュリティ対策状況の整理

セキュリティ対策の取組状況については、調達仕様書等の関連文書の他に情報セキュリティ実施手順を整理、確認してください。

情報セキュリティ実施手順とは、三重県電子情報安全対策基準(情報セキュリティポリシー)に基づいた各システムにおける具体的な対策として、①セキュリティ範囲定義書、②情報資産マトリックス兼セキュリティ対策定義書、③活動内容報告書、④緊急時対応計画を取りまとめたものです。情報セキュリティ実施手順はすべての情報システムについて作成が義務付けられており、毎年、定期的に見直しが必要となります。

第4 現行システムの運用状況の確認

1 システム評価ファイルによる運用状況の確認

システム評価ファイルに基づき、現行システムの運用状況を確認します。確認に当たっては、「第3 1 システム概要の整理・確認」で収集した文書を参照します。

システム評価ファイルは、後述する評価観点に基づき質問項目がまとめられたもので、選択肢式や数値を入力することで現行システムの評価結果を確認することができます。

システム評価ファイルの内容は定期的に見直しが行われているため、システム評価の実施は希望しないが、課題抽出のツールとしてシステム評価ファイルを利用したい場合は、デジタル戦略企画課に連絡してください。

【システム評価サポートサイト】

http://dkint22/plus/h20_288/hyouka.htm

(サポートサイト)システム評価ファイル 様式・記入例

【システム評価ファイルの例】

三重県情報システム評価チェックシート									
				回答年度			回答日		
基礎1. 管理情報									
システムの情報									
1	登録状態	1.稼働中 2.新規(予定) 3.廃止(予定) 4.取消 ※新規(予定)：予算要求前や予算要求中の新規システムは「新規(予定)」を選択下さい。また、稼働後には「稼働中」に変更下さい。 ※廃止(予定)：廃止されたシステム、廃止予定のシステムは「廃止(予定)」を選択下さい。 ※取消：誤って起算された基礎調査票を取り消す場合に「取消」を選択下さい。							
2	システム名称等 ※本項目は修正不可				3	管理番号 ※本項目は修正不可			
4	基本事業番号				5	情報関連予算名 (細事業名)			
6	情報セキュリティ実施手順 の作成対象有無 ※本項目は修正不可	1.対象 2.対象外 3.未整理			7	対象時の情報セキュリティ実施 手順ID ※本項目は修正不可			
8	現システムにおけるシステム評価 の実施年度及び実施有無				9	現システムにおけるシステム評価の結果(次期システムの方向性)	1.未実施 2.実施済(◎) 3.実施済(O) 4.実施済(●) 5.実施済(△) 6.実施済(▲) 7.実施済(x)		
担当所属の情報									
10	担当部局				13	担当者名			
11	担当所属				14	職員コード			
12	所属コード				15	連絡先			
16	システム種別 ※本項目は修正不可	1.大規模システム 2.中小システム 3.大規模システム(共通基盤) ※大規模システム：過去5年間のシステム投資額が1億円以上となるシステム。 ※共通基盤：庁内システムに対して共通的にサービスを提供するシステム。							
基礎2. システム概要									
1	システム整備の 主たる目的	1.県民サービスの向上 2.業務の効率化 10.全庁共通の情報基盤 ※10はシステム種別が「共通基盤」の場合のみ選択可							
2	システム整備の主な効果								
	効果の指標								
	システム導入による効果 目標	新たな効果目標							
		現時点の効果目標							
		導入当初の効果目標							
効果の確認方法									

2 現行システムに対する評価の観点

システム評価では、システム化による県民・業務への貢献度合いを評価する「県民への貢献度・業務への貢献度」をはじめとする6つの評価観点を基に、総合的に現行システムの評価を行います。

6つの評価観点と評価観点ごとの主なチェック項目は以下のとおりです。評価観点によっては継続して把握することが望ましいものもあります。

【システム評価における評価観点と主なチェック項目、評価実施タイミング・頻度の例】

No.	評価観点	主なチェック項目
1	県民への貢献度・業務への貢献度	・システム整備の目標設定状況 ・事業環境の変化への対応
2	県民への影響度・業務への影響度	・システムが停止した場合の利用者・利用システムへの影響 ・システムが停止した場合の代替可否
3	ニーズの把握	・意見・要望・クレーム等に対する対応 ・システムのレスポンス ・システムからのデータ出力 ・システム運用における業務の効率化 ・システムの利用状況
4	セキュリティ	・三重県電子情報安全対策基準の遵守状況

No.	評価観点	主なチェック項目
		・BCP 作成状況
5	システムの状況	・障害対応状況 ・システム関連文書の管理状況 ・システム運用の作業負荷 ・システム運用の管理状況 ・システム運用のサービス品質保証
6	コスト削減の取組状況	・システムの運用保守契約 ・ハードウェア構成に対する見直し状況 ・他県比較の検討状況 ・システムの移行性 ・システム改修における予算化・調達状況 ・機種限定のソフトウェア製品の利用 ・ソフトウェアライセンス活用状況 ・システム機器構成の把握 ・システムのソフトウェア構成の把握

第5 現行システムの運用状況の評価

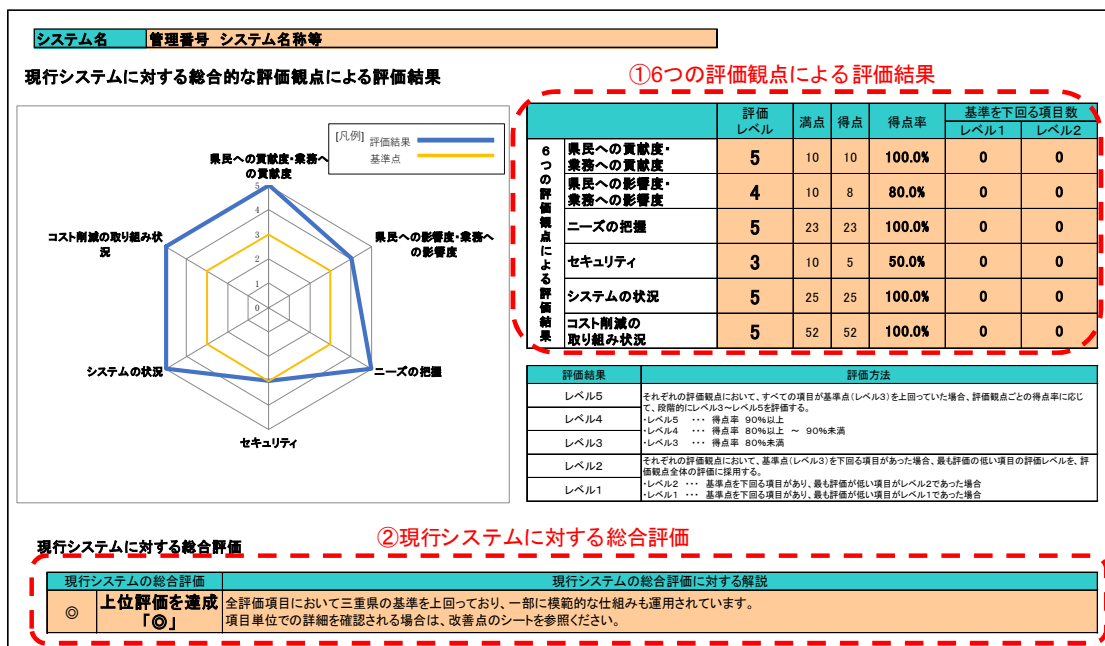
1 運用状況の評価

運用状況の評価は、これまで作成した情報システム基礎調査票、システム評価ファイルの回答内容をもとに、自動的に評価結果が算出され、結果を確認することができます。

評価結果は大きく以下の2点で記載されています。

- ① 現行システムに対する6つの評価観点による評価結果(評価観点1～6)
- ② 現行システムに対する総合評価

【運用状況の評価ファイルの例】



2 評価レベルの判定基準

システム評価ファイルでは、6つの評価観点に対して、複数の評価項目(設問)が用意されています。評価項目に対する個々の評価(評価レベル点数)を基に、それぞれの評価観点全体での評価(評価レベル)が判定されます。

評価レベルとは、三重県の全システムが必須で目指すべき姿を「基準点」(レベル3)と定義し、5段階(レベル5～レベル1)にて現行システムの状態を評価する評価基準です。

評価レベルとその定義及び当該レベルの状態については、以下のとおりです。

【評価レベルと定義及び状態の例】

<div> <div>チェックシート</div> <div> <div><県民への貢献度></div> <div> <div>・ 評価項目(設問)1</div> <div>・ 評価項目(設問)2</div> <div>・ 評価項目(設問)3</div> </div> <div><県民への影響度></div> <div> <div>・ 評価項目(設問)1</div> <div>・ 評価項目(設問)2</div> <div>・ 評価項目(設問)3</div> </div> <div>...</div> <div>評価レベル 点数</div> </div> </div>	評価レベル	評価レベルの定義	当該レベルの状態
	5	・ 早急な実現は難しいケースも想定しうるが、将来像として全システムが目指すべき「Bestの姿」。	・ 他のシステムの模範となり、優秀事例として共有可能な状態。
	4	・ 全システムが目指すべき「Betterの姿」。	・ 最低限の対応を実施した上で、更なる改善につながる仕組みが運用されている状態。
	3 (基準点)	・ 全システムが必須で目指すべき姿。 ・ 改善を必須で求めるかどうかの基準となる。	・ 必要な対応を認識しており、最低限の求められる対応を実施している状態。
	2	・ 望ましくない状態であり、出来る限り早いタイミングでの対応が求められる。	・ 必要な対応を認識しており、情報収集等を行っているが、最低限必要な対応が取られていない状態。
	1	・ 致命的な状態であり、即時の改善が求められる。	・ システムに関する必要な対応を把握しておらず、不適切な状態が放置されている状態。

3 6つの評価観点による評価判定

6つの評価観点ではそれぞれの評価項目の「評価レベル点数」を基に、「得点率方式」と「最低点方式」どちらかで判定を実施します。

① 「得点率方式」による評価判定

評価観点における全評価項目が基準点(レベル3)以上となった場合

それぞれの評価観点において、評価項目ごとの「評価レベル点数」の加重平均を行い、その加重平均の結果(得点率)を基に、レベル5、レベル4、レベル3の評価レベルを判定します。

② 「最低点方式」による評価判定

基準点(レベル3)を下回る評価項目が存在した場合

それぞれの評価観点において、評価項目ごとの「評価レベル点数」において、最も「評価レベル点数」が低い評価項目を、評価観点全体の評価レベルとして採用します。(レベル2、レベル1)

評価レベルの判定方法をまとめると、次のようになります。

【評価レベルの判定方法の例】

評価レベル	評価観点単位での評価方法
レベル 5	それぞれの評価観点において、すべての評価項目が基準点(レベル 3)を上回っていた場合、評価観点ごとの得点率に応じて、段階的にレベル 3～レベル 5 を評価する。 ・レベル 5 得点率 90%以上 ・レベル 4 得点率 80%以上～90%未満 ・レベル 3 得点率 80%未満
レベル 4	
レベル 3	
レベル 2	それぞれの評価観点において、基準点(レベル 3)を下回る評価項目があった場合、最も評価の低い項目の評価レベル点数を、評価観点全体の評価に採用する。
レベル 1	・レベル 1 基準点を下回る項目があり、最も評価が低い項目がレベル 1 であった場合 ・レベル 2 基準点を下回る項目があり、最も評価が低い項目がレベル 2 であった場合

上記評価レベルの考え方で、実際に評価した例を以下に示します。

【実際の評価の例】

評価観点単位での評価 (評価レベル)		評価項目ごとの評価結果 (評価レベル点数)				
		評価 レベル	満点	得点	得点率	基準を下回る項目数 Lv1 Lv2
評価観点による 評価結果	県民への貢献度・ 業務への貢献度	5	39	38	97%	
	県民への影響度・ 業務への影響度	3	40	31	78%	
	ニーズの把握	3	41	30	73%	
	コスト	1	(40)	(32)	(80%)	1 2
	セキュリティ	5	47	44	94%	
	システムの状況	2	(44)	(29)	(66%)	1

4 現行システムに対する総合評価

「現行システムの総合評価」は、6 つの評価観点及び費用対効果の結果から 3 段階で判定されます。

【現行システムの総合評価の例】

現行システムの 総合評価	解説
「◎」 上位評価を達成	全評価観点(6 項目)において三重県の基準(レベル 3)を上回っており、レベルの平均が 4 以上となっている。

現行システムの 総合評価	解説
「○」 基準を達成	全評価観点(6項目)において三重県の基準(レベル3)を上回っており、レベルの平均が4未満となっている。
「■」 要見直し	一部の評価観点で三重県の基準を下回るもの(レベル1、レベル2)が存在する。

前項で上げた「実際に評価した例」については、評価レベルが1、2となる項目があるため、総合評価は「■」(要見直し)となります。

第6 現行システムの課題認識

1 改善点

評価ファイルには「改善点」シートがあります。改善が必要な項目は白地で表示されますので、システム担当者は、白地の項目について確認を行い、対応方法、対応の方向性、対応時期を検討し、記入します。

【現行システムの評価を踏まえた改善点(担当課の回答)】

現行システムの評価を踏まえた改善点(自動表示)			対応方針の回答(担当課にて記入)	
番号	指摘の分類	指摘の内容	対応の方向性	対応の時期
1	セキュリティ	・三重県電子情報安全対策基準本編および解説書を確認して、実施できていない対策について、見直しを行ってください。	現行システムにおいて改善を実施	令和x年 3月まで
2	ニーズの把握	・利用者の要望やクレームを踏まえた改善・対応を検討して下さい。 ・システムの機能改善に活かすことはもちろん、そもそものユーザの業務やシステムに対する不理解がある場合も想定される為、利用者との適切な対話を設ける機会が必要です。 ・また、追加費用が必要となるケースも想定されますが、要望の優先度や費用対効果などを考慮し、適切な対応を検討して下さい	現行システムにおいて改善を実施	令和x年 3月まで
3	システムの状況	・システム運用のサービス品質保証について、SLAや仕様書に明文化した上で、事業者から月次報告などで定期的に報告を受けてください。 ・運用業者が実施する作業について、作業内容や作業頻度、作業ボリュームなどに不明確なものがある場合、過剰なコストが掛かってしまっている可能性が懸念されます。現状の委託内容を整理すると共に、適切な報告を求めることで、定期的な委託内容の見直しを行って下さい	基準を上回る項目は グレーアウトされる	
4	コスト削減の 取り組み状況	・利用できる県有ソフトウェアライセンスを確認し、活用して下さい。 ・WindowsのCALやウィルス対策ソフトなど、いくつかの県有ソフトウェアライセンスが存在します。次期システムを検討するにあたっては、それらの活用を前提に検討を行って下さい。	次期システムにおける適用を検討	令和x年 3月まで
5	コスト削減の 取り組み状況	統合サーバでは、バックアップ等のサービスも提供されており、システムのコスト削減だけでなく、運用負荷の軽減やセキュリティの向上が図れる可能性があります。次期システムを検討するにあたっては、統合サーバの活用も検討して下さい。	次期システムにおける適用を検討	令和x年 3月まで
6	...			
...	...			

2 見直し案

システム評価ファイルには「見直し案」シートがあります。このシートでは、現行システムの基礎情報などに基づき、次期システムにおける見直し案の適用可否を簡易判定した結果が表示されます。

現行システムの評価結果を踏まえて、次期システムにおける見直しを検討するに当たって活用します。

次期システムにおける見直し案 (主な候補)	見直し案の適用可否 の簡易判定	適用に向けた検討事項
中小統合サーバの利用	適用を推奨	1. ○○○○を検討下さい。 2. ○○○○を検討下さい。 3. ○○○○を検討下さい。 「適用を推奨」(黄色表示)と表示される見直し案について、適用に向けた検討事項をご確認ください。
ASPの利用		...
他室・他部局等とのシステム統合	検討を推奨	... 「検討を推奨」と表示される見直し案について、適用を検討できる見直し案であるかご確認ください。
自治体クラウドサービスの利用、 他団体との共同利用 パッケージの利用	—	...
ウェブアクセシビリティ対応ホームページ 作成システム(ALAYA)の活用	適用を推奨	... 適用の可能性が低い見直し案はグレー表示されます。
簡易Webデータベース(D*Box)の活用		...
OAツールの利用		...

第7 現行システムの改善／次期システムの方向性検討

1 次期システムの方向性

「次期システムの方向性」は、「現行システムの総合評価」の結果によって、以下の区分からいずれかを選択することになります。

【現行システムの総合評価に対応した次期システムの方向性の例】

現行システムの 総合評価	次期システムの方向性	
	判定	内容
「◎」 上位評価を達成	○	現行システムを継続利用する中で、更なる改善を実施
	●	次期システムで、更なる改善を実施
「○」 基準を達成	○	現行システムを継続利用する中で、更なる改善を実施
	●	次期システムで、更なる改善を実施
「■」 要見直し	△	現行システムの改善により、評価3以上を実現
	▲	次期システムで見直しを行い、評価3以上を実現
	×	システムを廃止

方向性と改善点、見直し案を踏まえ、評価レベルに改善の余地がある項目について、次期システムにおいてどのように対応するのか、具体的な方針と実施時期を評価結果シートの「次期システムの方向性」欄に記載します。

システム名 ○○事務処理システム	
現行システムの評価結果を踏まえた次期システムの方向性(担当課の回答)	
・現行システムの総合評価の結果を踏まえて、次期システムの方向性を回答してください。	
選択項目から「△」「▲」「×」のいずれかを選んで、記入項目に具体的な内容を記載してください。	
次期システムの方向性 (選択項目)	▲：次期システムで見直しを行い、評価3以上を実現
次期システムの予算要求前書 査定年度(記入項目)	平成31年度
次期システムの方向性の詳細 (記入項目)	
<p><次期システムにおける方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期システムにおける抜本的な見直しを行うことで、現行システムの改善点を解消するとともに、更なるコスト削減と業務効率化を実施します。 ・具体的見直し施策としては、中々統合サーバの活用や、パッケージソフトの活用などを検討する予定です。 ・端末、プリンタについては、現状専用端末を使用しているため、次期システムにおいては一人一台パソコンからの利用を検討する予定です。 ・また、今後、RFIの実施や他県調査結果の分析等も行いつつ、費用対効果を考慮して検討を進めていきます。 <p><次期システムにおける評価項目単位での改善案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価項目単位での改善点に関する対応としては、基準点を下回る項目ではないものの、○○の項目や、○○の項目、○○の項目について改善余地があるため、次期システムの検討においては、必要機能の精査や、ハードウェア構成の見直し、汎用的な運用業務の分離調達なども検討する予定です。 <p><次期システムに向けた予算要求の見込み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度の当初予算として、システム再構築の予算要求を行う見込みです。 ・既に運用開始から5年を経過しており、機器保守の期限等から、平成31年度当初予算での要求が必要です。 	
新たな機軸施策の適用可否 (選択項目)	可
新たに適用可能な機軸施策 (記入項目、具体名)	中々統合サーバの活用、パッケージソフトの活用、一人一台パソコンの活用
既に適用済の機軸施策 (記入項目、具体名)	

2 現行システムの改善

現行システムの評価の結果、機能改修を行わずに運用の変更等で対応できる項目については現行システムで改善を実行します。特にセキュリティに関する項目等緊急を要する場合は、デジタル戦略企画課に相談の上、早急に対策を講ずるようにします。また、機能改修等、委託事業者の対応が必要な改善策については、委託事業者と相談の上で実施を検討します。内容によっては追加費用が必要な場合もありますので、そのような場合は緊急度や費用対効果等の検討を行い、機器更新時や次期システムでの見直し時に変更する等、方向性の再検討を実施します。

3 システムの抜本見直し

現行システムの運用改善だけでは対応できない場合、次期システムの調達時に抜本的な見直しを行います。詳細は「第2章 第4 業務・システムの見直し内容の検討」を参照してください。

4 全体最適化施策(横串施策)

次期システムの方向性の具体的施策については、他のシステムにおいても適用できる場合があります。そのような施策は全体最適化施策(横串施策)として「最適化における優秀事例集」に対応案の詳細が記載されています。

次期システムの方向性を検討する際には、横串施策の適用ができないかも併せて検討します。また、横串施策の適用を検討する場合は、デジタル戦略企画課へ相談します。

5 システム評価結果の取扱い

システム評価の評価結果として得られた当該システムにおける課題への対応方法については、課題対応方針を作成し、次期システムの調達時における予算要求前審査に引き継いで確認します。

なお、現行システムの評価結果を踏まえて、次期システムにおける見直しが必要となった場合、必要に応じて課題解決支援として次期システムの方向性の検討について支援を受けることができます。

第8 課題解決支援

1 課題解決支援の概要

課題解決支援は、現行システムの問題点の解決と最適化の方針に即した次期システムの実現及び全体最適化の観点での見直しの実現を図るための支援を行うものです。

2 課題解決支援の実施

(1) 現行システムの評価結果を踏まえた課題解決支援

- ・ 支援対象の判断基準

現行システムの総合評価が「■」(要見直し)であるが、次期システムの方向性が未検討、不明確、不十分であった場合

- ・ 支援の終了条件

次期システムの方向性として、「△」・「▲」・「×」が明確になること。疑義が残る場合には、その後の予算要求前審査の必要可否を支援担当者と協議した上で、デジタル戦略推進委員会に評価結果に関する判断を求めます。

- ・ 支援の実施主体

審査部会の部会員(支援担当者)及び外部専門家で実施します。その後の予算要求前支援・審査も一貫して実施します。

(2) 横串施策の適用検討のための課題解決支援

- ・ 支援対象の判断基準

現行システムの総合評価が「◎」(上位評価を達成)、「○」(基準を達成)であるが、横串施策による抜本的な見直しの余地がある場合

- ・ 支援の終了条件

次期システムの方向性が明確になること。疑義が残る場合、その後の予算要求前審査の必要可否を支援担当者と協議した上で、デジタル戦略推進委員会に評価結果に関する判断を求めます。

- ・ 支援の実施主体

事務局により横串施策の適用可否を識別した上で、審査部会の部会員(支援担当者)及び外部専門家で支援を実施します。